

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2091500070		
法人名	ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター塩尻		
所在地	〒399-6461 長野県塩尻市大門三番町2番3号		
自己評価作成日	平成25年 9月 20日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成25年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の思いに気づき、思いに寄り添って、安心して暮らしていただけるよう、取り組んでいる。地域とつながりながら暮らしていけるよう、交流の機会を持ち、地域の行事へ参加させていただいている。地域の皆様の協力をいただいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ニチイケアセンター塩尻は、開設後4年目を迎える。運営推進会議を通して地区長、民生委員の理解と地域住民の協力のもと、利用者が地域と繋がりが暮らし続けられるような交流に取り組まれてきた。ホームの協力医が運営推進会議で利用者家族への健康状態の説明がされている事は、利用者や家族の安心につながっている。また今年度より、行事や日々の様子の写真入りのホーム便りの送付を開始し、家族には大変好評であった。今後もホーム理念「ここが皆さんの第二の自宅となるように」を目指し、日々のケアを振り返り、本人の気持ちはどうか、といった視点でチームでの検討を行いながら利用者が安心して暮らせるよう努められていく旨がうかがった。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(ひまわり)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
ユニット名(たんぽぽ)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館の社是、経営理念を基本に据え、ホームの目標を持って実践につなげている。	母体法人の経営理念のほか、ホーム独自の理念「ここがみなさんの第二の自宅となるように」は、日々のサービスの提供場面で職員が常に立ち戻る根本的な考えとなっている。今後、利用者の状態や社会的ニーズに合わせて、現状にあった理念に作り替えていく旨をうかがった。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さん、民生委員さんに協力をいただき、近隣の皆様と交流をすすめている。地域行事やイベントに参加して地域の皆様との交流の機会を持っている。	「暮らし」が事業所の中だけで完結しないよう、日常的な地域との相互関係を目指して取り組まれてきた。地区の民生委員の積極的な働きかけにより「元気づくり教室」への参加や、合同お茶会の催しなど、ご近所との交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館の元気づくりの教室参加や、ホームの行事へ地域の皆様に参加していただき、入居者の皆様と交流し、支援の様子をみていただき、認知症の方の理解や支援方法を伝えていけるよう努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動・取組状況などの報告、意見交換して、サービスの向上に活かしている。地域参加へもつながっている。	運営推進会議は、利用者家族をはじめ、民生委員、地区長、包括支援センター職員など参加のもと、定期的開催されている。ホーム協力医からの利用者の健康面の説明等もあり、参加されている利用者家族にとっては大きな安心につながっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者への相談、報告やアドバイスをいただきながら、協力関係を築いて繋がっているよう、努めている。	介護保険課の職員が交代で運営推進会議に出席するなど、ホームの実情を伝える機会を持っている。今後も担当者との協力関係を築いていく旨をうかがった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム会議・ユニット会議の話し合いやマニュアル確認をしながら、身体拘束への理解を深め共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員は、研修や勉強会を通じ、身体拘束のないケアの実践をされていた。</p>	<p>身体拘束禁止の対象となる具体的な行為とその弊害を、すべての職員が理解する事が、利用者が抱えている根本的な不安や混乱を理解する事につながる。今後、身体拘束だけではなく言葉の拘束を含めた更なる理解浸透に向け、研修等への取り組みを期待する。</p>
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム会議・ユニット会議の話し合いやマニュアル確認をしながら、虐待について理解し、虐待が見過ごされることがなく相談できる環境であるよう努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>ホーム会議で勉強会を持っている。現在、成年後見制度を活用されている入居者様もあり、職員全体で理解を深めていく。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の申し込み時から、十分な説明に心がけている。契約・解約時には不安や疑問点を尋ね、入居者様・ご家族様が納得して契約を締結できるよう努めている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃からご家族様に入居者様の健康状態や介護状況をお伝えするよう心掛けている。面会時に意見・要望を伝え易い関係や環境になるよう努め、運営に反映させている。意見箱は設置しているが、あまり活用されていない。</p>	<p>利用者の把握をきめ細かく出来るよう、担当制を充実させる方向で取り組まれている。写真入りのホーム便りの送付開始により、ホームでの利用者の生活の様子を家族が把握できる、と家族からは感謝の声が聞かれている。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から職員の意見・提案に耳を傾けるよう努め、ホーム会議・ユニット会議においても意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。</p>	<p>個別面談は、必要に応じて行われている。管理者は職員の要望や意見を把握し、勤務体制などは柔軟に対応されている。事業所の運営やケアについての提案は、ミーティングで話し合わせ、職員の意見が活かせるよう努められている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とのコミュニケーションに努め、よい点、改善点などその場で伝えられるよう心がけている。キャリアアップ受験を勧めている。面談などを通し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、講習会への参加を促し、グループホーム合同研修、ホーム会議での勉強会を持っている。チームワークを通じて、ケアの実際や力量による課題にも取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、講習会へ参加し、同業者との交流の機会を持ち、情報交換し、より良いサービスの向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前のご本人の生活の様子や環境を把握し、ゆっくりとご本人とコミュニケーションが取れるよう心がけ、ご本人の安心に繋がるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や申し込み時から、不安や要望などをゆっくりうかがうように心がけ、信頼関係が築いていけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みや面談時から、ご本人やご家族を含めた状況や要望の把握に努め、他のサービスの提案し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いに気づき、思いに添えるよう努め、一緒に考えたり活動したりして、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族ともに入居されて良かったと思っただけのようなサービスを目指し、ご家族へのこまめな連絡とご意見をお聞きしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅での生活と変わらずに、いつでも親戚や友人、知り合いの方など面会・外出を行なえるよう、環境作りに努めている。	職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係を把握し、利用者の友人や近所の方が訪ねてきたり、希望に応じて手紙や電話、墓参りや外泊などつながりを継続できるよう支援されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット会議やホーム会議などを通じて、入居者様同士の関係を把握し共有し、互いに良い関係を築けるように手助けや配慮して、支え合えるような支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談していただけるような関係が築けるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いに気づいていけるようコミュニケーションに努め、ユニット会議でご本人の要望、思いなど共有し、話し合っている。	職員は一人ひとりの思いや意向について、本人の表情からくみ取るとともに、家族の意見やミーティングでの意見交換をもとに、本人の意向の把握に努められている。	利用者によっては、思いや希望を表出できないこともある。曖昧にしたり、「認知症だから」と一方的に決めつけられてしまうことのないよう、日頃の行動や表情より真意を受け止め、本人の視点に立ち丁寧に検討される事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の話や活動の様子などを通し、センター方式シートを用いて把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の、朝ミーティングや介護記録、アセスメントシートから、情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット内で入居者様の担当を決めて、担当者が主になり、職員全員で関わっていけるように始めている。ユニット会議で意見、アイデアを反映できるよう、話し合っている。	計画作成担当者は、本人と家族の意向を把握し、計画を立案している。スタッフミーティングで話し合い、具体的なケア場面に反映されるよう取り組まれている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など介護記録に記入し、職員間の申し送りノートを使用し、入居者様の変更事項や連絡事項など共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化する状況にも柔軟に対応できるように、勉強会や話し合いの場を持ち、より良いサービスに繋がるよう努力している。職員間の意見交換も大事にしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握につとめている。地域や近隣の皆様に恵まれて積極的に交流を図っており、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協定医の往診が月1回あり、医師とホームの信頼関係ができており、ご家族様との連携が出来ていくよう連絡をこまめに心がけている。かかりつけ医はご本人、ご家族の希望で勧めており、ご家族を通して連携をとっている。</p>	<p>ホームの協力医の定期的な往診により、健康管理が行われていることは、利用者とその家族の安心につながっている。訪問看護師との24時間の連絡体制のもと、迅速で適切な対応が可能となっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週に1回の訪問看護で情報の交換を行い、健康、医療に関する相談や指導をいただいている。日頃の介護に活かし、適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の病院のMSWと連携をとっている。入院中に訪問し、現状を把握するとともに、情報交換を行い退院に向けての対応などスムーズにすすむよう努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ホーム内での会議、運営推進会議などで、協定医からの意見をお聞きし、勉強会を開き、終末期に向けての支援に取り組んでいる。ご本人、ご家族とのコミュニケーションを大事にしている。</p>	<p>入居時に重度化や終末期の指針を説明し、本人、家族の意向を確認し、事業所の対応し得る最大限の支援について検討しながら取り組まれる旨を伺った。</p>	<p>終末期支援のあり方は、利用者や家族の不安のひとつである。社会的ニーズを把握し、職員の意欲と理解を得られる取り組みや、家族との話し合いのタイミング、看取り後の他の利用者や職員の心理面の影響については、研修を重ねながら体制を整えられることを期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ユニット会議やホーム会議などで、緊急時の対応について確認し、勉強会を持っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署と合同の避難訓練を計画し、実施している。地域住民の方にも参加していただき、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署や地域住民の参加と協力のもと、夜間を想定した避難訓練が、行われている。</p>	<p>入居者の高齢化に伴う身体機能の低下や重度化により、今後ますます避難誘導が困難になる状況が予測される。定期的な避難訓練のほか、日常的な通報訓練や消火器の使い方の確認など、いざというときに慌てず確実に避難誘導ができるよう備えられることを望む。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを守る事はいつも根底にあるよう繰り返し職員に働きかけ、そのような言葉かけや対応ができるよう努めている。	プライバシーの保護と人権の尊重は、対人援助の基本原則であり、研修や勉強会を通して職員は常に確認し合いながらケアをされている。	利用者の尊厳とプライバシーの保護を徹底していくために、定期的に研修や勉強会を継続する事が大切である。なれ合いになり利用者の誇りを傷つけることのないよう、利用者には年長者として敬意を払い、自己決定しやすい言葉かけや対応に努められることを望む。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表し易いように、また自己決定できるような言葉かけや環境をつくりに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペース、思いを大切に、希望にそった時間を過ごせる支援ができるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のその人らしさを大切に、思いに気付く、身だしなみやおしゃれができるよう、ご家族とも相談しながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、調理の手伝いや味見をしていただいたり、片付けは毎日の日課になってお願いしている。食事が楽しみとなるよう、心がけている。	利用者の身体状況の把握により、利用者一人ひとりにあわせた形態で食事が提供されている。入居者が食事をしている間職員はサポートに徹している様子がうかがえたが、後片付け等は、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒に取り組まれている。	利用者と職員と一緒に楽しんで食事をすることにより、食への理解やよい人間関係づくりにもつながり、家庭的な雰囲気の中での楽しい食事になると思われる。グループホームの特性をふまえて、一緒に食事を楽しめるあり方を前向きに検討されることを期待する。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を毎食記録し、日々の介護に活かし、その日の体調にも合わせた食事を提供している。食事・水分が取れない方やその機会が増えてきており、工夫しながら少しでも心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>その方の心身状態を把握し、適切な口腔ケアを行なえるよう、カンファレンスや会議などでも話し合いや勉強会を行っている。歯科検診が始まり、歯科医師とも相談している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>心身状況を把握し、その方にとって適切な排泄方法を行なえるよう、日々の介護の中や会議やカンファレンス内で話し合いを行い、職員間の情報共有をし、自立にむけた支援に努めている。</p>	<p>トイレは車いす対応のスペースが確保され、清潔に整備されていた。排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりにあった排泄支援が行われている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>提携医や訪問看護のアドバイスなどもいただきながら、入居者様の個別のカンファレンスを行い、定期的な排便コントロールを行なえるよう努めている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>希望に沿った時間に入浴できるよう、入浴前に入居者様に相談してから入浴にお誘いしている。</p>	<p>週2回以上の入浴支援が行われている。入浴を拒む利用者には、タイミングをみながら言葉掛けや対応の工夫をされて、一人ひとりに添った入浴支援をされている。音楽や季節に合わせた菖蒲湯やゆず湯などで、入浴を楽しんでいたできるよう取り組まれていく旨をうかがった。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ご本人体調や生活ペースを大事にして、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。ご家族希望のもと、センサーマット使用されている方がこまめな見守り、見回りを心がけている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬支援について、皆で再確認・検討して、取り組んでいる。薬の作用、副作用の理解、症状の変化の確認など、全職員が共有していけるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメント時の聞き取りから、その方の趣味、嗜好の把握に努め、入居後も継続、新たな楽しみを見つけていけるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の外出支援の意識をたかめ、ご家族や地域の方にもご協力いただきながら、できるだけ外出の機会を持つように努めている。	利用者の体力に合わせ、天気の良い日には民生委員や近隣の住民の見守りのもと、散歩支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は基本的に事務所が行なっているが、本人の希望に沿った買い物ができるように配慮している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一緒に手紙を書いたり、勧めたりしている。電話はご本人の希望や様子をうかがいながら、ご家族の状況に配慮しながら支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が不快に思われない環境整備をするとともに、心地よい生活空間になるよう、会議などでも話し合っている。季節感や生活感を採り入れ、居心地良い環境づくりに心がけている。	ホールや廊下には、利用者の作品や季節の飾り付けが飾られている。展示されている行事の写真を利用者が眺めては思い出話をされるなど、心身の活力を引き出すような環境づくりを工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の様子を把握しながら席の位置や環境作りの工夫に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や、大事なぬいぐるみなど活かし、本人や家族と相談して、快適な空間作りを意識している。	利用者が今まで使い慣れ、親しんでこられた家具や、家族写真、位牌などを持ち込み、思い思いの過ごしやすい居室となるよう工夫されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の「できること」「わかること」を職員が把握し、残存能力を活かす支援ができるよう、努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ニチイ学館の経営理念の唱和を定期的に行なうとともに、ホーム独自の目標も立て、実践に繋げている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域へのイベント参加はもちろん、ボランティアも導入している。散歩やイベント参加などの機会に近隣住民との交流もできている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所としての地域貢献に取り組んでいる。又、行事の参加や交流の中で、地域の方々へも認知症の人の理解や支援の方法を伝えていけるよう努めている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ホームの取り組み状況の報告・意見交換を通し、サービスの向上に活かすとともに、地域参加へも大きく反映されている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者への相談はもちろん、アドバイスもいただきながら、協力関係を築いていけるよう努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの読み合わせ、研修会の開催により、職員全員の身体拘束への理解を深め、身体拘束のないケアに向けて取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの読み合わせ、研修会の開催により、虐待について理解し、虐待行為がないのももちろん、虐待が見過ごされることがなく、相談できる環境であるよう努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議で勉強会を持っている。現在成年後見制度を活用されている入居者様もあり、職員全体で理解を深めていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約には、十分な時間を掛けて説明し、質問・疑問を聞き、入居者と家族が納得して契約を締結できるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見・要望の言い易い環境・関係作りに努めている。又、意見箱の設置・苦情窓口も備え、運営に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員の意見・提案に耳を傾けるよう努めるとともに、会議などを通して運営に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、スキルアップ制度の利用や面談の実施など、コミュニケーションを密に取り、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を考慮し、研修会や講習会への参加を促し、働きながらトレーニングしていけるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講習会へ参加し、同業者との交流を当してサービスの向上に反映できるように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを一番に考え、会話の中から、本人の不安や訴えを探り出し、要望に沿って安心を確保するための環境作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学・事前面接時など、家族との会話から不安点・要望を聞き、信頼関係に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望などから、より望ましいサービスが必要であれば、他のサービスも提案し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの能力を発揮できる自立支援を促しながら、共同で生活する関係を築けるように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に面会でき、面会時は家庭の雰囲気でごせ、時には家族で外出・外泊する機会を作って家族の絆を大切に出来る環境作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類はもちろん、近所の友人・昔馴染みの友人など、今まで大切にしてきたなじみの関係が壊れず、いつでも誰でも面会・外出の出来る環境作りに努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互い支えあって生活できるよう、コミュニケーションの手助けや関係作りの架け橋となるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、何かあれば相談に応じ、それまでの関係性も大切にしながら、支援できるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者それぞれの思いや暮らしの希望・意向を把握できるようコミュニケーションに努め、困難な場合は話し合いや定期的な会議の場などで検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、本人の思い出話・行動をもとに、センター方式の記録を通して、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況や心身状況など、センター方式の記録を通し、変化や現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスの実施により、それぞれの関係者の意見やアイデアを反映させた計画書の作成に努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの状況を介護記録へ記入し、職員間で共有しながら、実践や計画書の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、一つの考えにとらわれず、色々な意見を聞いて柔軟な支援が行なえるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近な地域資源の把握と、本人の参加・地域の関わりにより、地域の中で本人が安全に暮らせるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が希望しているかかりつけ医と事業所の関係の構築に努め、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>月4回の訪問看護で、健康に関する相談や情報の交換を行い、適切な受診や看護を受けられるように努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は、病院関係者と連絡を密に取り、早期退院に向け情報交換や相談に努めているが、それ以外でも病院関係者との関係作りを努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族との話し合いにより、移行を踏まえた方針を共有し、関係者の協力のもと安楽な終末期生活を過ごせるような支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルの読み合わせ、定期的な研修や訓練の実施により、急変や事故発生時の対応がスムーズに行なえる実践力を付けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に避難訓練を実施している。時には地域の方にも訓練に参加していただくことにより、地域との協力体制の構築に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、プライバシーを損ねることのないよう、言葉の一つ一つを大切にした声かけや対応に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言い易い環境作りに努め、自己決定できるような声かけや促し方を心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大事にし、その方の希望を聞きながら、その人らしい一日を過ごせるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の機会や、地域の方との交流など、人と接する機会を持つことにより、おしゃれの意欲をなくさないような環境作りと、その人らしい身だしなみへの支援に心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方好みや力を活かし、それぞれが役割を持って食事の準備から片付けまでの流れに参加し、食事が楽しみなものになるような支援を心がけている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の身体状況や週間を理解し、必要な栄養摂取や水分の確保が出来るよう、それぞれに応じた対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々の口腔状態を把握し、それぞれの身体状況や能力に応じた口腔ケアを毎食後に実施している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄行為の自立へ向け、それぞれの排泄パターンや習慣に合わせたトイレ誘導や声かけなどを行い、排泄の失敗やおムツの使用を減らせるように努めている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>バランスの良い食事、野菜や乳製品の摂取や水分の摂取、適度の運動を促すなど、個々に応じた便秘予防に努めている。主治医と連携をとって、下剤の使用で調整している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>その方の体調や希望に合わせて、楽しめる入浴となるような配慮と、個々の身体状況や能力に応じた支援に努めている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その方の生活習慣や体調、その時々状況に応じ、休息したり、安心して気持ちよく眠れるような支援を心がけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬について全職員が理解し、服薬の支援や体調・症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や特技・能力を活かした役割を見つけ、それぞれに合った楽しみや気分転換の支援に努め、張り合いや喜びのある生活が出来るように心がけている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族・地域の方の協力も得ながら、本人が外に出たい時に出れる、希望に合わせた外出の機会が作れるように努めている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所ではあるが、本人の希望や能力に応じ、使いたい時に使えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の希望や意向を尊重し、家族や大切な人との電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境が利用者の不安や混乱を招く刺激とならないよう、清潔の保持・温度や湿度の管理など、様々な角度から配慮を行なうとともに、季節感や生活観を感じ、過ごし易い空間作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間・共有での時間を、自分に合った空間で思い思いに過ごせるような居場所の工夫に努めている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の居室は、今まで住みなれた生活に近い空間で、馴染みの物があり、安心して心地よく過ごせる場所であるように工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者の「できること」「わかること」を活かして、それが安全に継続して行なえ、自立した生活が送れるように工夫している。		

目標達成計画

作成日:平成25年11月21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23 (9)	入居者様の帰宅したい、仕事をして人の役にたきたい、などの思いが強くとち着かない様子の時に、職員が困っていて、入居者様と向き合っていないのではないか、という時がある。	入居者様の思いに気づき、寄り添っていく。入居者様が安心して張り合いを持って過ごしていける。	入居者様の思い、様子や言葉を大切にし、なぜだろう、望まれていることは何だろう、と、いつでもご本人を中心に考えていけるように、チーム、個々で取り組んでいく。メンバーで情報を共有し繰り返し話しあいながら対応していく。	6ヶ月
2	6 (5)	入居者様の安全を守るための、言葉がけが『ダメ』など、言葉による拘束になってしまう時がある。	入居者様の思いに気づき、寄り添っていく。入居者様が安心して張り合いを持って過ごしていける。	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為や身体拘束だけではなく言葉の拘束を含めた弊害を、すべての職員が理解できるよう、研修等の取り組みを増やしていく。言葉使いに注意し、言葉を大切にしていける。	6ヶ月
3	36 (14)	言葉がけがなれあいであったり、入居者様が自己決定できることばがけや対応ができていない時がある。	入居者様の思いに気づき、寄り添っていく。入居者様が安心して張り合いを持って過ごしていける。	入居者様の尊厳とプライバシーの保護を徹底していくために、定期的に研修や勉強会を継続していく。なれあいになり、入居者様の誇りを傷つけることのないよう、言葉使いに注意し、言葉を大切にしていける。挨拶を大切にしていける。	6ヶ月
4	35 (13)	入居者様の高齢化・身体機能の低下・重度化により、災害時の避難に困難が多い。	災害時に皆様が安全に避難できる。	年2回の定期訓練のほかに、こまめに訓練の機会をもつ。地域、近隣の住民の皆様力も大きいので、合同訓練をお願いしていく。近隣の皆様と日頃から交流していく。	12ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。